



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月12日

上場会社名 武蔵野興業株式会社
 コード番号 9635 URL <http://www.musashino-k.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 義勝
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 山崎 雄司
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3352-1439

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	571	27.4	35	131.1	44	21.8	1	91.8
2020年3月期第2四半期	786	17.8	15	90.4	36	78.8	21	82.3

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 2百万円 (87.9%) 2020年3月期第2四半期 21百万円 (82.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	1.68	
2020年3月期第2四半期	20.45	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	6,311	3,703	58.7	3,539.30
2020年3月期	6,247	3,701	59.2	3,536.83

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 3,703百万円 2020年3月期 3,701百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,245	17.7	25	324.8	40	0.4	25		23.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	1,050,000 株	2020年3月期	1,050,000 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	3,561 株	2020年3月期	3,551 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	1,046,445 株	2020年3月期2Q	1,046,452 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然として大きく、感染再拡大のリスクがある中で消費マインドは改善するに至らず、景気の展望は引き続き厳しい状況が続いております。このような状況のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、映画事業部門におきまして、当社経営の映画館「武蔵野館」「シネマカリテ」は一定期間臨時休業し、営業再開後も座席数を隔席にするなどの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施する中、上映作品の魅力を発信し営業活動に努めたものの、セグメント損失の計上となりました。自動車教習事業部門におきましても、一定期間臨時休業をするなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら営業活動を続けておりましたが、自動車免許取得需要に大きな落ち込みは見られず、セグメント利益を確保いたしました。不動産事業部門におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による入居テナントの経営環境への影響に注意を払いながら営業活動を行ってまいりましたが、ほぼ前年同期並みの営業成績となりました。また、特別利益として「新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等」25百万円、特別損失として「臨時休業による損失」54百万円を計上し、その結果、全体として売上高は5億7千1百万円（前年同期比27.4%減）、営業利益は3千5百万円（前年同期比131.1%増）、経常利益は4千4百万円（前年同期比21.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1百万円（前年同期比91.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント情報ごとの業績の状況は以下の通りであります。

(映画事業部門)

映画興行事業におきましては、「武蔵野館」では、『イップマン 完結』『赤い闇 スターリンの冷たい大地で』等、また「シネマカリテ」では、『ようこそ映画音響の世界へ』『行き止まりの世界に生まれて』等を上映いたしました。当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一定期間、両劇場を臨時休業し、また、政府・自治体の方針や業界団体のガイドラインに則り、一定期間、販売座席数を隔席（通常営業時の2分の1）として営業するなど、同感染症拡大防止対策を講じて営業活動を行いました。そのような経営環境の中、良質な上映作品が好評を博したものの、全体として当第2四半期連結累計期間の業績は厳しいものとなりました。映画配給関連事業につきましては、地方都市を中心に、当社連結子会社による自社買付配給作品の香港映画『淪落の人』の配給を継続いたしました。部門全体の売上高は1億2千3百万円（前年同期比59.4%減）、セグメント損失は3千万円（前年同期は1千1百万円のセグメント損失）となりました。

(不動産事業部門)

賃貸部門におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による経営環境の変化により、入居テナントの動向が引き続き懸念されているものの、当第2四半期連結累計期間におきましても、前年同期並みの収益を確保することが出来ました。販売部門におきましては、業界のネットワークを通じて市況の把握に努めておりますが、具体的な営業活動の成果を得るに至りませんでした。その結果、部門全体の売上高は2億8千6百万円（前年同期比0.2%減）、セグメント利益は1億7千1百万円（前年同期比1.3%増）となりました。

(自動車教習事業部門)

新型コロナウイルス感染症の拡大により厳しい経営環境となる一方で、大学、専門学校等の学生の運転免許取得需要があり、また、大型自動車、特殊自動車免許等、普通自動車免許以外の教習メニューの営業成績も堅調に推移いたしました。その結果、部門全体の売上高は1億4千1百万円（前年同期比8.1%減）、セグメント利益は販売費及び一般管理費の減少等により4千万円（前年同期比60.7%増）となりました。

(商事事業部門)

当該事業部門の軸である東京都目黒区において経営委託している飲食店は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、客席数の制限を行う等、お客様に安心してご来店いただけるよう各種感染防止対策を行いながら営業しておりますが、消費マインドは回復するに至らず、営業成績は前年同期を下回りました。その結果、部門全体の売上高は1千8百万円（前年同期比52.5%減）、セグメント利益は3百万円（前年同期比15.5%減）となりました。

(その他)

主としてマクミラン・アリスの著作権手数料や自販機手数料であります。部門全体の売上高は2百万円（前年同期比42.1%減）、セグメント利益は1百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

※ スポーツ・レジャー事業部門は営業中止中であります。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、減価償却による有形固定資産の減少があったものの、金融機関よりの借入金により現金及び預金が増加し、前連結会計年度末に比べ6千4百万円増の63億1千1百万円となりました。

負債合計は、テナントビルの設備更新に係る未払債務の減少があったものの、同設備資金や新型コロナウイルス対策資金としての長期借入金の増加があったことなどから、前連結会計年度末に比べ6千2百万円増の26億8百万円となりました。純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ2百万円増の37億3百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、当第2四半期連結累計期間に、営業活動において0百万円の資金を得て、投資活動において1億5千万円の資金を使用し、財務活動において2億5千4百万円の資金を得た結果、前第2四半期連結会計期間末に比べ、8千4百万円増の7億8千2百万円（前年同期比12.2%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉

営業活動によって得られた資金は、税金等調整前四半期純利益1千5百万円や減価償却費4千9百万円、雇用調整助成金等の受取額2千5百万円等があった一方、売上債権の増加1千5百万円、退職給付に係る負債の減少1千7百万円、臨時休業による損失の支払額4千3百万円、法人税等の支払額2千1百万円等があったことにより、0百万円（前年同期比95.0%減）となりました。

〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉

投資活動によって使用した資金は、テナントビル設備更新工事等の有形固定資産の取得による支出1億5千1百万円等により、1億5千万円（前年同期は4百万円の支出）となりました。

〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉

財務活動によって得られた資金は、長期借入金の借入による3億円があった一方、長期借入金の返済による支出3千6百万円、リース債務の返済による支出8百万円等があり、2億5千4百万円（前年同期は4千4百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、当社映画館は座席販売数を通常の1/2にするなどの感染症拡大防止対策を取りながら営業を行ってまいりましたが、連結営業成績は厳しいものとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大は、今後、冬に向けて第二波の発生が懸念されるなど、収束時期は引き続き見通すことは困難であり、映画事業をはじめとした基幹事業の収益による安定的な内部留保の積み上げを実現するには、相応の時間を要するものと考えております。

そのため今後も、新型コロナウイルス感染症が事業に与える影響を把握し、経費の節減や資金の確保に十分に配慮しながら、あらためて、営業利益による自己資本の充実と将来の利益配分に向けて、映画の自社買付配給等、映画に関連した新たなビジネス・コンテンツの開発も継続して行うことで映画事業の収益力改善を目指すとともに、不動産事業、自動車教習事業におきましても、新たな経営環境への対応を進め、グループの収益力の強化と復配に向け、経営の全力を傾注してまいります。引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大による厳しい経営環境が予想されることから、2021年3月期通期連結業績予想につきましては、売上高12億4千5百万円、営業利益2千5百万円、経常利益4千万円、当期純損失2千5百万円を予想しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	677,401	782,225
売掛金	31,232	46,353
たな卸資産	2,749	1,231
その他	60,895	50,545
貸倒引当金	△377	△504
流動資産合計	771,901	879,851
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	802,938	769,682
機械装置及び運搬具(純額)	15,613	12,454
工具、器具及び備品(純額)	21,495	21,743
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産(純額)	33,171	25,025
有形固定資産合計	4,777,387	4,733,074
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	12,077	14,589
無形固定資産合計	79,337	81,849
投資その他の資産		
投資有価証券	460,150	466,498
繰延税金資産	27,644	24,723
敷金及び保証金	88,646	88,646
その他	46,216	41,457
貸倒引当金	△4,035	△4,135
投資その他の資産合計	618,621	617,190
固定資産合計	5,475,346	5,432,114
資産合計	6,247,247	6,311,966

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	57,890	67,579
短期借入金	71,352	90,292
リース債務	15,851	15,087
未払法人税等	24,493	13,901
賞与引当金	12,961	8,657
その他	406,131	235,346
流動負債合計	588,679	430,864
固定負債		
長期借入金	122,035	366,159
リース債務	17,320	9,938
退職給付に係る負債	99,335	82,159
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
長期預り敷金	619,084	619,064
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	8,579	9,013
固定負債合計	1,957,457	2,177,437
負債合計	2,546,136	2,608,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	252,428	254,190
自己株式	△8,561	△8,582
株主資本合計	1,248,367	1,250,107
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	660	1,472
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,452,744	2,453,556
純資産合計	3,701,111	3,703,664
負債純資産合計	6,247,247	6,311,966

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	786,829	571,518
売上原価	435,685	250,549
売上総利益	351,143	320,969
販売費及び一般管理費	335,851	285,632
営業利益	15,292	35,336
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,173	4,361
持分法による投資利益	12,932	5,240
還付消費税等	7,147	—
その他	372	781
営業外収益合計	22,625	10,383
営業外費用		
支払利息	782	867
その他	715	478
営業外費用合計	1,497	1,346
経常利益	36,420	44,372
特別利益		
新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等	—	25,717
特別利益合計	—	25,717
特別損失		
臨時休業による損失	—	54,969
投資有価証券評価損	4,400	—
特別損失合計	4,400	54,969
税金等調整前四半期純利益	32,020	15,120
法人税、住民税及び事業税	12,531	10,437
法人税等調整額	△1,912	2,921
法人税等合計	10,618	13,358
四半期純利益	21,401	1,761
親会社株主に帰属する四半期純利益	21,401	1,761

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	21,401	1,761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△195	811
その他の包括利益合計	△195	811
四半期包括利益	21,206	2,573
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,206	2,573

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	32,020	15,120
減価償却費	55,695	49,101
新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等	—	△25,717
臨時休業による損失	—	43,041
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△78	227
受取利息及び受取配当金	△2,173	△4,361
支払利息	782	867
持分法による投資損益(△は益)	△12,932	△5,240
投資有価証券評価損益(△は益)	4,400	—
売上債権の増減額(△は増加)	△6,183	△15,121
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,039	1,517
仕入債務の増減額(△は減少)	16,197	9,688
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,694	△17,175
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,191	4,275
その他	△42,597	△21,106
小計	48,978	35,117
利息及び配当金の受取額	2,173	4,361
利息の支払額	△842	△847
雇用調整助成金等の受取額	—	25,717
臨時休業による損失の支払額	—	△43,041
法人税等の支払額	△44,784	△21,029
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,523	277
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,060	△151,552
無形固定資産の取得による支出	△1,033	△3,619
その他	△2,101	4,820
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,195	△150,351
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△35,114	△36,936
リース債務の返済による支出	△9,023	△8,145
自己株式の取得による支出	△12	△21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△44,149	254,897
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△42,821	104,823
現金及び現金同等物の期首残高	740,167	677,401
現金及び現金同等物の四半期末残高	697,345	782,225

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	303,889	286,557	154,024	38,473	782,945	3,884	786,829
セグメント間の内部売上高又は振替高	13	35,208	—	—	35,221	—	35,221
計	303,903	321,766	154,024	38,473	818,166	3,884	822,050
セグメント利益又は損失(△)	△11,058	169,543	25,397	3,800	187,683	1,235	188,918

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	187,683
「その他」の区分の利益	1,235
セグメント間取引消去	△39
全社費用(注)	△173,586
四半期連結損益計算書の営業利益	15,292

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。4. 報告セグメントごとの資産に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	123,383	286,008	141,608	18,269	569,269	2,248	571,518
セグメント間の内部売上高又は振替高	102	35,208	—	—	35,310	—	35,310
計	123,485	321,216	141,608	18,269	604,580	2,248	606,828
セグメント利益又は損失(△)	△30,994	171,724	40,823	3,212	184,765	1,265	186,031

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、版權事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	184,765
「その他」の区分の利益	1,265
セグメント間取引消去	37
全社費用(注)	△150,732
四半期連結損益計算書の営業利益	35,336

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。